
シンポジウム

「地域共生社会に向けて」～障がい児の立場から～

The 29th Tohoku Occupational Therapy Congress in Yamagata

みんなが生活しやすい環境を作っていく ～発達障害児を育てる中で感じたこと～

阿部 忍

朝日町立病院 作業療法士



文部科学省による平成 24 年実施の「通常の学級に在籍する発達障害（自閉症、学習障害及び注意欠陥多動性障害）の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果で、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は 6.5 %となっている。また、同省が平成 27 年に公立の小学校、中学校を対象として実施した「通級による指導実施状況調査」の結果では、通級による指導を受けている発達障害のある児童生徒数は 41,986 人で、平成 18 年度と比較し約 6 倍の数となっている。

長男は 1 歳半の検診で言葉の遅れを指摘され、3 歳で広汎性発達障害（当時の診断名で、現在は自閉症スペクトラム障害となる）と診断を受ける。就学前は児童発達支援事業所へ通い、小学校は地元の学校に進み特別支援学級に在籍し、通常学級へ参加する際は、支援学級の先生が付き添い、交流を図っている。学校の中ではそれなりに子ども達同士の交流を持てるが、自閉症スペクトラム障害の特性でもあるコミュニケーション障害により、学校以外の場所で地域の子も達と一緒に遊ぶということは難しい。できるだけ多くの人と関わりを持ち交流する経験をして成長してほしいと思い、それぞれ違う 3 箇所の放課後デイサービスを利用し、スペシャルオリンピックス日本・山形の陸上とスキープログラムにも参加している。

メディア等で発達障害が取り上げられる機会が増えたことで障害に対し理解が進み、飲食店や宿泊施設、遊戯施設等では症状を説明することで配慮してくれるところは増えてきている。しかし、公共の場で突然大声を上げたり、独り言を言い好奇の目にさらされることも珍しくない。

今回のシンポジウムでは療育や教育に関して苦慮したことや試行錯誤した経験をお伝えし、皆様と考えられる機会になればと思う。

略歴 ● 阿部 忍 (あべ しのぶ)

- 平成 12 年 3 月 山形医療技術専門学校 卒業
- 12 年 4 月 医療法人社団悠愛会 入職
- 17 年 4 月 医療法人篠田好生会 篠田総合病院 入職
- 18 年 10 月 朝日町立病院 入職